

令和7年度 中学生の「税についての作文」
緑納税貯蓄組合連合会 優秀賞

地球市民としての責任

桐蔭学園中等教育学校 第二学年 燕谷 えみり



せみりとすの役目もあることに驚きました。

今年も暑い夏がやつて来ました。外に出ればたまに汗をかき、時折頭痛にも見舞われます。ひとときの涼を得るためにアイスを貰おうといが、この数年の物価高に消費税まで加わって、いつでもしづばです。そこで私は、「そもそも暑さの原因である地球温暖化は何とかならないのか」と気になつたシテを立ち上げました。なぜ「地球温暖化に関する税金がある」とこの内容がなぜか気になつました。

調べを進めて私が知ったのは、気候変動や資源の枯渇に対処する取り組みを促す「環境税」の一種、「炭素税」や「森林環境税」の存在です。炭素税とは、日本では石油石炭税がこれに相当します。石油や石油製品、石炭や石炭に課税されるものです。この税は、石油や石炭などの輸入時に課税され、のちに個人や企業が自動車燃料の購入時や航空運賃、ガス料金や電気料金の価格に転嫁される形で負担するシステムです。（他にも電気料金じや、「再生賦課金」も含まれます。）日本の他フインランドやノルウェー、英國などの欧州諸国で導入されています。また、森林環境税とは、住民税の均等割に加わる形で徴収される国税です。主に森林の整備や促進に使われており、森林と水源の保全にも役立っています。私は、今まで「この間にかかる税金」と捉えていた税金は、環境問題を解決や

気候変動は、私たち人類が起した災いです。私たちは地球上に存在しているにもかかわらず、自らの存在基盤を傷つけてしまう。しかし、私たちが過ちを犯す一方で、それを正すことも出来ぬと思っています。今回、私たちひとりひとりが納税の義務を全うする上で協力でやれば気候変動対策を知りました。炭素税や森林環境税が他の国でも導入されれば、良い結果が広がつてしまでしょ。その積み重ねで、ツバルなどの島国が水没するのを防ぐ止められたり、熱中症警戒アラートが出される頻度も少なくなるでしょう。

「税制には、私たちが日本国民のみならず地球市民として、地球環境への責任を果たすことができる仕組みも存在してこな」と連日の通話の中、私は思い至りました。

桐蔭学園中等教育学校 第二学年 燕谷 えみり